

1 研究主題 「学習指導要領の趣旨を生かした国語力の育成」

2 研究の概要

妙高市教育研究会国語部会では、昨年まで「我が国の言語文化にふれて感性や情緒を育むこと」に重点を置いて研究を進めてきた。今年も、これまでの活動を生かして、夏の一斉研修会では、初心者指導のポイントを中心にした書写指導を行い、秋の一斉研修会では、斐太北小学校の県小教研学習指導改善調査研究授業公開校実践事例報告会に参加することで研究を深めた。

3 研究の実際

(1) 夏の一斉研修 平成27年8月20日(木) コミセン2F大広間

- ・内容 入門期の書写指導について
- ・講師 上越市立大和小学校 校長 荒川 圭子 様



入門期の書写指導を4つの段階に分け、注文した書写用具が来る前の準備から、用具の使い方や後片付け、生活を潤す楽しい書写授業まで、効率のよい初心者指導のあり方について講演していただいた。

さらに、書写作品の簡単な表装の仕方についても指導していただいた。身近にあるものを活用したり、手軽に購入できたりする表装の材料を紹介していただき、参加者が当日作成した作品の表装を行った。

(2) 秋の一斉研修 平成27年11月19日(木) 斐太北小学校

○県小教研学習指導改善調査研究授業公開校実践事例報告会に参加

- ・研究主題 「創り出す子を育む」国語科と生活科・総合的な学習の時間との関連を図った子ども発の単元づくり
- ・授業公開と分科会 1・4・6年生
- ・講演会 テーマ「創出過程が成り立つ国語単元学習の要素」
講師：上越教育大学 准教授 古閑 晶子 様

～部員の感想から～

授業者が予め決めた指導事項やスキルのみを身に付けさせる授業から、子どもと共に学習過程を創り出す授業にするためには、授業者に子どもの姿を見極める高い資質と能力が求められる。講演会では、学習要素を見極める視点と国語科と生活科や総合的な学習の時間を関連させる方法について貴重な示唆をいただいた。

4 成果と課題

書写指導で行った用具の使い方や片付け、筆の運びを分かりやすい音で表現する指導等は、入門期だけでなく、小・中学校の書写指導全体を通して学ぶべき点が多かった。また、表装作りでは、子どもの意欲を高める指導の幅を広げることができた。

課題は、子どもの姿から学ぶ研修の充実である。今回は、斐太北小学校の実践事例報告会に参加することで研究を深めることができた。今後、国語部の研究主題に沿った授業公開等の研修の機会をどのように確保していくかが課題である。